

祝! かわら版 300号突破!!



のぼのぼがわら版

発行者 (株)のぼのぼ
〒246-0001
横浜市瀬谷区御本町9279-37
TEL 045-921-3561
FAX 045-921-5337
毎月20日発行 第300号

おかげ様で300号

かわら版をご購読頂いております皆様のおかげで、ついに300号を迎える事が出来ました。本当にありがとうございます。一度に2号出した事もあります。が、およそ25年続いた事になります。当社は卸問屋ですから、自社で作ったオリジナルだけの記事だけでなく、メーカーさんの商品をご紹介する事で(採用するしないは別として)長く続ける事が出来たのだと思います。

100号記念ではオリジナルの「のぼのぼ携帯ストラップ」をプレゼント、200号記念では「展示会」を開かせて頂く事が出来ました。300号では何を記念にするべきか非常に迷いましたが、最終結果「うんこTシャツ」をプレゼントする事に決定しました。「うんこTシャツ」とは少し硬めのうんこがとぐるを巻いているマークを左胸に刺繍した素晴らしいTシャツです。もちろん商標登録済みです。ラルフローレンの様な生地への直接刺繍ではなくラコステみたいにな、わざわざワッペンに刺繍して立体感と高級感を出しました。こちらを欲しい方はお電話にて「300号おめでとうんこ」と言って頂ければ荷物と一緒に送ります。色サイズは選べません。是非お楽しみください。

働くのぼちゃん Vol. 300



上記「うんこTシャツ」ですが、一店舗様一枚限りです。また出来るだけ休み明け日曜等のお電話はおさください。

〇〇君 重要

かわら版298号裏面での記事「帰宅途中の冷やしたぬき」。お客様の反応はマチマチでした。お客様に「バカだね!」と言ってくださる方もいれば「これウソだねっ、絶対に脚色されてるよ」と怒る方。

しかし本当に本当の話なのです。話は変わって、先日のアシックスの展示会の最終日、6月10日の夜「のぼお」はまっすぐ家に帰らず何人かの従業員と一緒に上野の行きつけの焼鳥屋に寄り道しました。長男の誕生日なのに。普通ではなかなか食べられない希少部位をたくさん食べて上機嫌になった「のぼお」はお酒を飲まなかつた従業員に運転を任せ自宅まで送ってもらいました。すぐ帰ればいいのに、また行っちゃったのです、他の店に。その日はベロンベロンにはならず最後の店を出たのですが、やはり途中のファミリーマートに寄ってしまった。 「冷やしたぬきうどん」を手に取り計算しようとレジに向かいました。

「のぼお」はお札の入った長財布と小銭入れと二つの財布を持っています。お会計しようとポイントカードの入った小銭入れを出すと微妙に足りません。 「すみません、ちょっと待って下さい」 カバンに入った長財布を取り出すとすると 「いいですよ」 「は?」 「ああ、それでいいです」 「何それ、ちゃんと払うよ、コンビニでそんな事しちゃレジ合わなくなっちゃうじゃん」 「大丈夫です、僕出しときますから」 「何で?」 「よく買ってもらってるし」 「バーン!」 「も、もしかしてアナタ前に僕にコレ食べさせてくれた人?」 「ええ、まあ、一応そうです」 ドカーン! 奇跡の出会いです! 「ホント! エッ! マジ! 会えたんだ、エッ! ありがとう、あの時の、うわあ」 酔っ払ってても、感動して嬉しくて嬉しくてたまりません。

他のお客様が途切れた時、 「じゃあ、ほら、ハーゲンダッツのマカデミアナッツ食べな」 長財布からお金を取り出し「好み」を聞かずにマカデミアナッツを買いました。 二人して外に出て「のぼお」は冷やしたぬき、青年はハーゲンダッツ。 「食べな」 「でもカメラとか大丈夫なのかな」 「ああ大丈夫です」 名前、年齢などの自己紹介から、どこに住んで、これからどうするのかが、将来の事など、たくさん話しました。 「写真撮っていい?」 「いやっ自分そういうの苦手なんです」 「じゃあ、ウチの新聞の記事にしている?」 持っていた「かわら版」を見せて簡単に説明すると 「名前とかあれっすけどいいですよ」 「ありがとう、じゃあまた来るよ」 出勤日と時間帯を聞いて後ろ髪ひかれる様に自宅に帰りました。家のドアを開けると誰かが間違えてセコムをかけていたので大きな音がして、急いで奥さんが二階

〇〇君 身長約175cm体重約60kg のぼおの家と馴染みの店のちょうど真ん中らへんのファミリーマートでバイトしている23歳の男の子 まだ将来何をやりたいのか自分の中で整理できていない でもきつと役にたつだろうと一年間自己流で勉強して、英語を話せる様になった頑張り屋さん 色々なバイトに手を出すより一ヶ所で長く働こうと考えている もちろん就職した後も いいね 住まいはほぼ同じ、丁目が違うだけ 人にうどんを食べさせたのは初めて



大丈夫ですか? 安心して下さい、さあどうぞどか言ってくれたのかな 美味しい 彼だったのです! 〇〇君! 彼も珍しい事だったのでよく覚えていたそうです

から降りてきました。音が止むのを待って、眠たくてしようがなさそうな奥さんに事の一部始終を話しました。 「良かったね、おやすみなさい」 ちゃんと聞いてくれたか定かではありませんが、まっいっか。その後、気持ちよく深い眠りにつきました。スーッ 気持ちよく寝すぎて翌日昼過ぎの出勤になってしまいました。みんな、ごめんなさい。しかし奇跡ってあるんですね。

しかし、たまたま記事にしたら、奇跡が起こるなんて、世の中って不思議なものです。そして翌日寝坊した上に、女子高生と同伴出勤するというのはどういう事なんでしょうか。意味が分かりません。